

平成 26 年度第 1 回 CCC 体育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成 26 年 4 月 19 日（土）13:00～15:00

II. 場 所：私立大学情報協会 事務局 会議室

III. 出席者：大橋委員、來田委員、内山委員、井畑事務局長、森下委員（事務局員）

欠席者：田附委員

IV. 資 料

資料① 平成 26 年度 CCC 体育学教育グループ運営委員会の活動計画

資料② ICT を活用した教育改善モデルの考察 体育分野（最新版）

資料③ 現在の授業で顕著な効果を上げている事例（体育学）

参考 0 スポーツ 社会を変える ウィルフリード・レムケ氏（読売新聞）

参考 1 用語集

参考 2 アクティブラーニング事例集 1 長崎大学

参考 2.1 科目の紹介

参考 3 国内大学におけるアクティブラーニングの組織的実践事例

参考 4 学ぶ 育む 大学の実力（読売新聞）

参考 5 学び改革 急ピッチ（日本経済新聞）

参考 6 大学 1 年生難題で覚醒（日本経済新聞）

参考 7 CSCL: ネットワークを用いたグループ学習支援システム（電子情報通信学会学会誌）

参考 8 発見的学習活動における創発的分業を支援する CSCL システムの開発（メディア教育研究）

その他

- ・公益財団法人私立大学情報教育協会 平成 26 年度事業計画書
- ・東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科のカリキュラム表等
- ・「達成目標の一部を実現するための教育改善モデル」（私案）：内山委員
- ・平成 26 年度 CCC 体育学グループ運営委員会名簿

V. 議事内容

1. 達成目標 4「身体文化としてのスポーツが持つ社会的機能について理解し、多文化・多様性を尊重する社会の発展に貢献できる」の一部を実現するための教育改善モデルの検討

(1) 達成目標 4 に記述内容について

内山委員より東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科のカリキュラムについて、資料にもとづき説明された。

その後、到達目標について、ウィルフリード・レムケ氏の「スポーツ 社会を変える（読売新聞）」（参考 0）をもとに、スポーツの持つ国際性や社会的意義の確認を行い、以下の通りとすることを確認した。

【原案】

上記の到達目標の内、「身体文化としてのスポーツが持つ社会的機能について理解し、多文化・多様性を尊重する社会の発展に貢献できる」を実現するための教育改善モデルを提案する。

[修正後]

上記の到達目標の内、「身体文化としてのスポーツが持つ社会的機能について理解し、多文化・多様性を尊重する社会の発展に貢献できる」を実現するための教育改善モデルを提案する。

(2) コアカリキュラムのイメージについて

コアカリキュラムについては、スポーツや体育の分野に特化する以前に、基礎となる内容（学問領域）の学修が必要であるという意見もあった。また、スポーツサービスやスポーツイベントに関わる内容のほか、近年注目されつつあるアダプテッド・スポーツの重要性などが示唆され、以下の通り修正された（下線部は修正された箇所を示す）。

[原案]

スポーツ原理、スポーツ倫理、スポーツ法、国際関係論、アダプテッド・スポーツ、スポーツマネジメント、スポーツ人類学など

[修正後]

スポーツ哲学、スポーツ倫理、スポーツ法規、国際スポーツ論、スポーツサービス論、スポーツイベント論、アダプテッド・スポーツ論、スポーツマネジメント論など

(3) 達成度として学生が身につける能力について

前回検討した文言を再検討し、①の文言に国際的な理解が明言されていないことから、②に「国際的な視野に立ち」を追記した。また、③項の削除を削除した（下線部は修正された箇所を示す）。

[原案]

- ① 自己実現、自己と他者の尊重、社会参画、相互理解と共生などのスポーツの社会的機能を理解できる。
- ② ①の理解に基づき、スポーツプログラムやスポーツ振興・普及人材の育成、組織マネジメント、非スポーツ関連組織との連携のなどについて立案や実践ができる。
- ③ さらに①と②を国際的な視野から考えることができる。

[修正後]

- ① 自己実現、自己と他者の尊重、社会参画、相互理解と共生などのスポーツの社会的機能を理解できる。
- ② 国際的な視野に立ち、スポーツプログラムの提供やスポーツ振興・普及人材の育成、組織マネジメント、非スポーツ関連組織との連携などについて立案や実践ができる。

2. 「2. 改善モデルの授業デザイン」について

1) 「2.1 授業のねらい」

「2.1 授業のねらい」については、社会の課題を発見できることやスポーツプログラムを実践できる能力をつけさせるなどの内容が盛込まれ、文言の修正がなされた。

[原案]

国際社会の中で、思想・歴史・文化など幅広い教養と豊かな見識を持ち、「スポーツ」を通じて、平和で豊かで美しい地域社会の発展に寄与できる能力を育む。また、「スポーツ」に関する企画力と

実践力を身につけることを目指す。

[修正後]

これまでの体育学分野の授業では、人種・言語・宗教・文化などの異なる多様な人々との相互理解に結びつくスポーツの機能について理解し、社会の課題解決に活かすことを理論的・実践的に学修することが十分ではなかった。

ここでは、国際社会の中で、思想・歴史・文化など幅広い教養と豊かな見識を持ち、計画的・戦略的なスポーツプログラムの企画・立案や実践を通じて、様々な社会の課題に取り組む能力を身につけることを目指す。

2) 「2.2 授業の仕組み」について

原案にもとづき文言の検討がなされた。ここでは、ツールとしての英語力を基本として、ICT やポートフォリオにより学修の経過を記録するなどの方法により学修を進める仕組みが議論された。その結果、以下の通り、修正された（下線部は修正された箇所を示す）。

[原案]

ここでは、卒業までの学修期間を想定しており、ある特定年次を想定したものではない。国際社会の一員として基本となるコミュニケーション力（英語力）はもとより、「スポーツ」の企画力や実践力を身につけるためには、ポートフォリオを用いた学修記録のほか、実際の活動現場の見学や企画への参画を経て、実際に企画運営を行うなど、段階的、発展的に履修が進むようなカリキュラムと支援体制が必要である。

[修正後]

ここでは、卒業までの学修期間を想定しており、ある特定年次を想定したものではない。国際社会の一員として基本となるコミュニケーション力（英語力）はもとより、「スポーツ」の企画力や実践力を身につけるためには、ICT やポートフォリオを用いた学修記録のほか、実際の活動現場の見学や企画への参画を経て、実際に企画運営を行うなど、段階的、発展的に履修が進むようなカリキュラムと支援体制が必要である。

2. 今後の進め方

「達成目標 4 についての教育改善モデル」についての検討を継続し、完成させることが確認された。

3. その他

次回の運営委員会は、平成 26 年 6 月 21 日（土）15:00～を第一候補日として、各委員と調整する旨、確認された。

（文責 内山秀一）